

エピソード6

～一枚のレシート～

40代 中学校教諭 男性

だらしがなくて、自分のロッカーの中も机の中もぐちゃぐちゃのままのC君。

ある時、生徒の帰った教室で、C君の机の中を片付けてやりました。すると一枚のスーパーのレシートが紙くずに混ざって出てきました。平日の夕方の日付です。《キャベツ・大根・カップ麺・いなり寿司・食パン・牛乳……そしてお菓子》

私は彼には幼い兄弟が多いことと、両親の帰りが遅いことを知っていました。みんなが塾や習い事に向かう時間に、彼はスーパーで家族のために買い物をしていたのかも知れません。

忘れ物の名人で提出物も期限内に出せない生徒ですが、「まあいいか。」その時、なぜかそんな気持ちになりました。

生徒にとって、学校にいる時間が生活時間のすべてではありません。それぞれの事情を抱えた子どもたちは、学校のことなど忘れてしまう時だってあります。それを不注意だとか、だらしないとかと咎めることはできません。

忘れ物の多い生徒は、厳しく注意しても、家に取りに帰らせても、懲りて忘れ物癖がピタリと治ると言うことはありません。簡単に治せるものなら治っているはずです。

案外C君は家の買い物は間違いなくできているのかも知れません。そしてそんなC君をこの先生は嫌いではないのです。その証拠に机の中を代わりに片付けてやるし、忘れ物もまあいいかと大目に見てしまいます。そしてスーパーのレシートを見たとき、C君が何から何までだらしない人物ではないことが確かめられて、少し安心したのかも知れません。

職員室の先生達の机の中はどうでしょう。本屋さんのレシートとか、返事の手紙とか、教え子からの手紙とか、家族旅行のパンフレットとか、お菓子の包み紙だって出てくるかも知れません。でもそれは、その先生がだらしない人物で教師不適格だという証にはなりませんよね。